

臨床病期 期高齢者肺癌に対する区域切除術の検討

濱武 大輔¹⁾ 岩崎 昭憲¹⁾ 岡林 寛²⁾
平塚 昌文¹⁾ 吉永 康熙¹⁾ 山本 聡¹⁾
白石 武史¹⁾ 白日 高歩¹⁾

1) 福岡大学外科学講座 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科

2) 福岡東医療センター呼吸器外科

要旨：目的：75歳以上高齢者肺癌の臨床的側面を明らかにすること。方法：1993年4月から2006年4月までに当施設で区域切除術を施行した臨床病期 期高齢者非小細胞肺癌28例の検討を行った。結果：高齢者肺癌患者の術前併存症は75%，術後合併症は39%に認めた。手術関連死亡は認めず，術後3年生存率は83.3%，術後5年生存率は66.2%であった。今回の症例の半数に胸腔鏡が使用されており，胸腔鏡下手術と区域切除の両低侵襲性を併せ持つ縮小手術は，高齢者肺癌において有用な治療法であると考えられた。

索引用語：高齢者，非小細胞肺癌，区域切除，胸腔鏡下手術